

令和6年度淀川区区政会議第2回コミュニティ力向上部会議事要旨

日 時：令和7年1月14日（火） 午後6時30分～午後7時41分

場 所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・ 委員8名（9名中）
 杉原委員、鈴木委員、西尾委員、西岡委員、西垣委員、湊委員、森委員、
 山本委員
- ・ 区役所
 岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、畑中総務課長、山田市民協働課長、吉國
 健康推進担当課長、大西政策企画課長代理、仲谷市民協働課長代理ほか

内 容：

1. 開 会
2. 区政会議におけるご意見への対応方針について
3. 個別テーマごとの意見交換
4. その他

資 料：

【当日配付資料】

- ・ 次第・配布資料一覧
- ・ 区政会議部会名簿、座席表
- ・ 資料1 区政会議におけるご意見への対応方針 説明用資料
- ・ 子ども・子育てに関する取組みについて
- ・ 淀川区子育て支援施設MAP
- ・ （参考）よどマガ！11月号特集記事（人生会議）
- ・ 区政会議アンケート
- ・ よどマガ！1月号
- ・ ご意見票
- ・ 淀川区区政会議 日程調整表
- ・ 返信用封筒

【事前配付資料】

- ・ （資料1）区政会議におけるご意見への対応方針

- ・（資料１別紙）令和７年度淀川区運営方針（案）
- ・（資料２）個別テーマごとの意見交換

１．開 会

２ 区政会議におけるご意見への対応方針について

○区政会議におけるご意見への対応方針及び説明用資料について区役所より説明

- ・「よどマガ！」が多くのマンションで配付されているが、そのまま捨てられているケースをよく見かけるため、無駄になっているのではないかと疑問を感じています。マンション管理人から配付不要の希望があれば対応しているそうですが、それだけで十分かどうかは疑問です。どうすれば良いかの具体的な答えは持ち合わせていませんが、区民のニーズに応えるための努力してほしいと思います。（湊委員）
- ・ワンルームマンションの多くがオートロックであるため、地域の配布物を届けるのが難しくなっています。管理会社に問い合わせても、住民に任せていると言われることが多く、管理人がいるところも少ないため、区役所が配布を行っても捨てられてしまうことが多いのが現状です。そのため、全戸配布をやめるなどの対策を考えないと解決が難しいと考えています。これは区役所の責任ではないというのが私の意見です。（西尾委員）
- ・「よどマガ！」に関しては、公募時に大学教授やマスコミ編集者と共に製作会社を選定した経験があります。淀川区としては、見やすく親しみやすい内容にするため、文字を大きくしたりイラストを増やしたりすることを考えました。ただ、多くの情報を区民に伝える必要があるため、内容はあまり変わっていないのが現状です。それでも、淀川区への愛着を持ち、定住してもらえるようなものを目指していることを理解してほしいと思います。ただし、捨てるかどうかは個人の判断なので、仕方がない面もあります。（山本議長）

3 個別テーマごとの意見交換について

- ・ 前回のコミュニティ力向上部会では、高齢者の孤独死と人生会議の人生ノートについて区役所の取り組みを紹介し、意見交換を行いました。本日は、人生会議とよどマガ！11月号の増ページ内容、防災を通じたコミュニティ力の向上、区民の困りごとの改善を目指した意見交換の3つのテーマで意見を交換していただければと思います。人生会議では、夢ちゃんマイノートについての記事を掲載し、認知症理解を深めるための講演会も行いました。また、よどマガ！11月号の内容について、来年も継続すべきかどうかの意見を求めています。防災については、よどマガ！1月号を参考に、地域コミュニティ形成の観点から意見交換をお願いします。最後に、残りの時間で区民の困りごとについて意見交換をお願いします。（大西政策企画課長代理）

人生会議 よどマガ！11月号増ページの掲載内容について

- ・ 人生ノートは渡されるだけでは書かない人が多いため、書き方の研修会を開くことが有効だと思います。11月30日に行った研修会で出された認知症に関する方針は、人生会議というより傷病に特化していました。国から提供されている親子の話し合いを描いたアニメーションなどを参考にし、研修会で少しでも書く時間を設けると良いと思います。個人情報が多く急には書けないので、名前など簡単な部分から始め、持ち帰って冷蔵庫に貼るなどして、しまい込まずに分かるようにしておくが無駄にならないと考えます。（鈴木委員）

- ・ この取り組みはとても良いと思います。加えて、X（旧Twitter）等のSNSにPDF等を貼り付けて内容を載せる等して、一目で関心を引く方法も良いと思います。

また、切迫した状況になってからでは遅いため、人生ノートに記入がなかったことで遺族が困った事例等を掲載し、啓発するのも良いと思います。また、老人会や町会での活用について、よどマガ！の増ページを利用してほしいというアナウンスがされているかが気になります。医療やケアに特化していますが、施設入所時の身寄りや財産管理などの課題にも対応できるような項目があれば良いと考えます。（湊委員）

防災を通じたコミュニティ力の向上について

- ・ どの地域でも防災訓練を実施していると思いますが、内容的にはマンネリ化しているところはあるものの、やっぱり毎年防災訓練には出たほうが

いいと思います。うちの地域連合長会の会長は遊び感覚でも構わないから出なさいと言っています。やはり、訓練には出たほうが絶対に、何か染みつくと思います。そういうことによってコミュニティ力というのは絶対上がると思います。(西岡委員)

- ・十三地域では、マンション住民が他者との接触に不安を感じる事が多く、個の家庭より乗り越えられたら困るというような方は、意外と多いです。よどマガ！を配布する際にも、ポストに入れるだけでなく、顔を合わせた話をする工夫が必要だと考えています。そうすることで、コミュニティ力が少しでも向上するという認識を持っています。配布する人にとっては大変かもしれませんが、顔を合わしたりお話ししたりというような交流を意識してほしいと考えています。(西垣委員)
- ・コミュニティを築く上で、言葉で相手と話し合い、お互いを理解することが基本であり、そのスタートは挨拶です。マンションでは隣人の顔や名前すら知らないのが現状ですが、私は声をかけるようにしています。最初は擦れ違うだけで何も言ってくれませんでした。同じマンションの住人として自己紹介をし、挨拶を続けることで、少しずつ関係が深まっています。挨拶は費用がかからず、若い人にもその重要性を伝えています。挨拶が人とのつながりを強くする大事な要素だと感じています。(森委員)
- ・私の地域では防災に力を入れており、昨年からは訓練方法を変えました。避難所に全員が入れないため、まず町会ごとに集まる場所を決め、そこで状況を確認してから避難所に行くようにしています。また、要介護リストを活用して地区防災計画や個別避難計画を進め、町会長と共に訪問して状況を確認しています。高齢者には家族以外の電話に出ないよう指導されていることから、福祉会館や私の携帯番号を連絡帳に入れてもらい、緊急時にはダイヤルを押すだけで連絡できるようにしています。今年はこの取り組みに特に注意を払って進めていこうと思っています。(西尾委員)
- ・防災に関心がある人は研修会や集まりに参加しますが、時間がないなどの理由で参加できない人たちへの情報共有が課題だと思います。今月、地域のお寺で行われるマルシェで「防災ノートを書こう」というワークショップを開催予定です。興味のある人が参加し、その人たちが家族や友人に広めるきっかけになることを期待しています。ワークショップを様々な場所で開催し、子どもたちを主役にした取り組みも重要だと考えています。消

防訓練では、消火器に水を入れて子どもたちが使う訓練も行っています。
(鈴木委員)

- 多くの人が備蓄がなくても大丈夫で、避難所に行けば入れると誤解している可能性があります。淀川区の避難所の収容能力は、19 万人の人口に対して3分の1程度しかなく、実際にはもっと少ないかもしれません。この現実を知らない人が多く、避難所の運営も町会が中心ですが、大きな地震が起きた場合には人手が不足する可能性があります。実態を示し、個人もボランティアとして関与する必要性を周知することが重要です。危機感を持たせることで、適切な行動につながると考えています。(湊委員)
- 転入してきた方や高齢の方に、町会に参加したいけれど方法がわからない人が多いです。特に町会長とのつながり方や参加方法が不明で、どこで情報を得られるのか、どうアナウンスされているのかがわからない状況です。(鈴木委員)
- マンションだったら、マンションの書類と一緒に町会案内みたいのを入れていただいたりとか、そういう工夫されてるところはありますが、なかなか加入してはくれないです。でもお子さんがいるところは、お子さんのためにと入りたいという方もおられると思うので、そういうアナウンスは絶対必要ではないかと思います。(山本議長)

次回の部会で議論したいテーマについて

- 防災のことをもっと深掘りしたほうがいいと思います。(湊委員)
- テーマは地域防災についてということをもとに1 番目のテーマで、また次回の部会で扱っていただいて、次に、うちの地域ではこんなことで困ってるんだということについて意見交換できたらと思います。結局、言っても町会に加入しないとかそちらの問題ですが、恐らくほかの地域もそうです。それは防災の意識の低さ等にもつながっていきますし、次回何か、役所のほうから、またテーマもいただいて、こちらからは、防災についてもう一度、深いところまで意見交換したいと思います。(山本議長)